

平成2年度 岡山県文化振興審議会

日 時：令和3年1月22日（金）14時～15時30分

場 所：おかやま旧日銀ホール（ルネスホール ワークルーム）

1 開 会 環境文化部長あいさつ

2 議 事

- ・令和2年度県実施主要事業について
- ・おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について
- ・令和3年度重点事業について

【事務局が資料に基づき説明】

【議長】

- ・今年度の事業の実績や子どもの頃から美術館に親しむための地道だが大切な事業などの説明があった。日本博物館協会が作っているコロナ対策のガイドラインは、本当に良くできており、これに沿って事業を実施すやれば上手くいくと評価されている。

【委員】

- ・説明については異論はない。コロナ禍で苦労はあると思うが、進めてもらえればよい。
- ・文化というカテゴリーの中では偏っている。アーティストでない、伝統的に職人や芸人によって繋がっている民族文化にも目を向けなければいけない。
- ・コロナが影響し、神楽や盆踊り、夏祭り、秋祭りといった行事が中止となっている。市町村の協力を得て、県でも数を把握しておく必要があると思う。コロナが収束しないで、今年も民族芸能や食文化などが2年にわたり日の日を見ないと、再生が難しくなる。コロナによる変化や2度と再現できなくなる伝統的な民族芸能や職人技術の記録は、私たちが作らないと歴史上浮かばれない。私の故郷でも、もう再生できない、次の代へ引き継げないというものが出てきている。

【議長】

- ・生きた人間が伝えていく文化、食文化、職人の芸などは、放っておけばすぐ無くなっていく。地味だからなかなか日が当たらないため低落傾向になって

いく。

去年から今年にかけてどんなものが延期や中止になったかを把握する例は、全国的にも少ないと思うが、将来の財産になると思う。

【委員】

- ・コロナは活動を停滞させる本当に大変な出来事だが、アート（美術）は、ソーシャルディスタンスを取りながら鑑賞できる。県美も高畑勲さんの展覧会は予約制を取り、2万人程入っているが、1時間に100人位が限度なのか。

【事務局】

- ・高畑勲展の時は、まだ日本博物館協会のガイドラインが厳しく、展示室の中でもソーシャルディスタンス2メートルを確保するという基準があったので、1時間あたりの人数は200人弱が限度になり、予約システムで15分間に40人前後を入れる形にした。
- ・来られた方には、「ゆったりと観れて良かった」と好評だったが、入力する手間が掛かり、特に高齢の方からは「我々を排除するのか」という厳しい指摘をいただくこともあった。
当初は、1日1,000人来ると、40日余りの会期で4万人程度と見込んでいたが、実際にはコロナ第2波で社会的に外出抑制ということもあり、結果としては遺憾ながら2万人弱という状況だった。
- ・現在は規制が緩和され、1時間あたり展示室は500人位が入る形で運用している。

【委員】

- ・例えば市町村にある美術館だと人数を計算・集積すると1時間10人程度ではないかと思うので、企画展に関しては、開こうと思えば予防しながら開いていけると思う。
- ・音楽や演劇は、参加する人達が作者や照明等色々な者が必要になるので非常にきびしい。例えば弦楽四重奏など少人数でも保育園や学校行事の中で組み込み、広い体育館などでやれば、音楽、小さな演劇、ワークショップなどもすごく喜ばれる。
- ・天神山文化プラザに文化連盟ができ、出前事業などの情報は発信できている。小学校や保育園で保護者も同時に見られるなど、小さな団体で発表していくという何かもう一つ工夫があればオファーはすごく沢山あると思う。
- ・小さな頃から学校教育の中で子供達に体験というかたちで、良いものを見せたいという感じをいつも受ける。幼児教育から、見せる機会が増えると良い。

- ・今日の新聞に芸術家発表の場創出とあった。登録バンク開設へということだが、良い企画だと思う。

【委員】

- ・昨年度、コロナの影響にどう対応したかということに尽きると思うが、予定していた事業で色々な取組をされたと思う。事業が中止や延期になったものもあると思うが、全体像を確認したいのとコロナ禍の中で色々な事業を展開し、その中で学んだ事を聞きたい。
- ・ワクチンが普及していけば変わってくるとはいえ、この1年あるいは来年にかけて With コロナの時代は続くと思うので、このコロナの教訓を活かし次年度どう事業を展開していくのかを聞きたい。
- ・文化事業は芸術文化を発表し、豊かな精神を育てるものであり、豊かな生活というのは文化的な生活だから、そうしたものを提供するということもあるが、地元の中に根付いている伝統文化が、地域がどんどん過疎化していき、祭りや色々な行事が無くなっていくということがある。今どういうものがあるかを見直し、チェックしておくべきだ。新聞社として地域の伝統文化を見直す意味もあり、今年1年コロナ禍の中で色々な行事を伝えるということをしているが、そうした行事がどんどん無くなって記事のネタが無くなっている。その地域の人には知っているが、他の県民は知らないというものを発掘して知らせると同時に、紙面で歴史を刻むという使命もあるから、書き起こしていったらどうかとしていたので、先程の話に共鳴した。

【議長】

- ・コロナ禍で体験した事は必ず、次に役に立つと思うので、気が付いた方はいろいろ記録しておくといい。備前焼ミュージアムでは、Go To トラベルが中止になり、大きな旅行業者は何とか稼がなければいけないというわけで、都会の小中学生や中学生の団体を送り込んできた。密になって危ないのではないか思いながら、大変な思いをした。

【委員】

- ・音楽の方だが、2月7日の矢掛町、3月13日の総社市での岡フィル特別公演のチラシがあるが、こうした情勢にめげないという気概が伝わってくるチラシであり、本当にありがたい。矢掛も総社もこうした演奏会を開催される素地があり、日頃から市民、町民の音楽活動が活発なので、こういう演奏会を盛り上げるのに昨年同様適した場所ということで選ばれたのではないか。そうしたご縁を県全体に広げていくことができたらいい。

- ・私の大学でも学習成果としての演奏会はやめるわけにはいかないのに、学内関係者のみで開催しているが、聴きたいという要望が非常にあるので可能なものはオンラインで配信したりという工夫をしているところだ。
- ・オンライン配信も普及しているが、ただ演奏会を配信するというだけではもう飽きたらなくなっていると思うので、内容について創意工夫を凝らしていくことが課題と考えている。

【委員】

- ・私は俳句が専門なので、その視点から御報告したい。まずコロナの影響だが、私は岡山県俳人協会に所属しているが、県内の俳句大会はすべて中止、対面の句会もできなくなり、作品を書いて主宰に添削をしてもらって通信句会という形になった。
- ・高校生の文芸道場の選者を務めているが、一昨年は対面で句会ができ、講評もできたが、去年は、句会は中止、作品を送ってもらい、選と選評を送った。
- ・資料の5ページの若手ダンサーによる作品とコラボした舞踏パフォーマンスを実施し、とても好評だったということだが、文芸作品とのコラボというのを今まであまり見たことがないので、俳句についても何か考えられるのではないかと思う。美咲町では俳句と書道で、子ども達や一般の方が作った作品で選に入ったものを有名な書家の先生が書いて展示するというをしている。他のコラボの方法がもっと考えられるのではないか。
- ・去年の第21回岡山芸術文化賞において、新井菜々実さんという操山高校生徒が、ジュニア奨励賞を受賞された。多分初めて推薦されたのではないかと思うが、とても嬉しく思った。

【議長】

- ・今までないコラボというものは、コロナ禍の中だからできたのだろう。例年だったら思いもつかなかった事を色々と発案した人がいたのだろうが、そういうものは、発信したらいい。

【委員】

- ・この配布資料で一番心に響いたのは、芸術家を知ってもらうという企画だ。私共も片田舎でぜひ見てもらいたいと、地元のもの、岡山県のもの、の展示会をしている。皆さんにより深く広く芸術家を知ってもらう上で、こうしてまとめておいてもらうと大変探しやすい。
- ・県の中でこういうアートとか芸術などで助成金をもらっていることによって、私達の企画がより幅広くできることにお礼を申し上げる。

- ・先程話の出た伝統文化だが、私も同じことを思っている。私達の小さな夏祭りだが、4町ほどが一斉にする夏祭りを毎年皆さんとても楽しみにしている。お祭りがなくなってしまう、食文化がなくなっていくというのは、身に迫る危機のような気がして大変怖いことだ。
- ・町の人達が自分で祭りの代わりを考えてもらえたらいいと思っているが、調査してもらえるようなことがあればぜひ欲しい。それにより、「私達このこと忘れてないよね、また頑張ろうね」と言えるのではないかな。
- ・この資料の中では映像に関することが大変少ない。映像的なものはドキュメンタリーにしろ映画にしろ、全般的な広がりのある文化的、芸術的なものであり、教育に大変貢献できるものだ。フランスでは、小学生や保育園生の中から映画を見せて、子ども達の感性を養う。
- ・真庭には、移住してきた方に、昔、素晴らしいドキュメンタリーを撮られた方や映画会社をやっていた方などがいる。山崎さんという映画監督がおり、山陽新聞にも書かれていたが、映像で学ぼう、映像から学ぼうというものをぜひ進めて欲しい。県にも力を入れてもらい、少しずつでもよいから各町村で見てもらおう。そして子ども達が喜んでその中から何かを学び、また、学ばせる先生方を成長させてほしい。
- ・美術系の学生が東京や大阪の大学に出て、帰らずにそのまま東京や大阪でアートをやっていこうとしているが、今のコロナの時期に難しいのではないかな。これを機に学生にぜひ岡山に帰ってもらい、助けるからみんなでやっとうという方向性を示すことによって、学生が「私も岡山に帰ってアート続けられるかも」と思ってくれば一挙両得ではないかな。若い人をつかまえ、その才能を伸ばす。多摩美大とか東京芸大とか色々なところに行っている方をそのまま放置しない姿勢というのが、県の中で必要だ。県立大学でも、すごくいいアートをしている方がいるので、そういう方がよそに行ってしまうない困り込みの企画も必要なのではないかな。

【議長】

- ・素晴らしい映画を作っている方が、山陽新聞に掲載されていた。ああして本質を見抜いて、これからは田舎の時代ということをきちんと見抜いているのはすごい。スタイルが決まってしまう、田舎は田舎の程度でいいということになってしまうとだめだ。
- ・例えば「見立てる」という行為は、非常に頭を使うし、思いもよらないことを発想したりする。それにより自分が成長できるという文化がある。なぜ自分はお皿に見えたのか、人はどう見えるのかということを考える要素になっている。だから多様な程文化は強いのだろう。

- ・都会の生活は、早く安く効率主義で突っ走るが、田舎はそうではなく、色々な人がいて、色々な意見を持ち、そうした中から案外次の時代の種が芽生えるのではないかな。

【委員】

- ・真庭もどんどん映像を広げていきたいので、県にも力を入れていただけたらありがたい。

【議長】

- ・そうした活動を新聞に発表したり、県で光を当てたら、岡山から何かが変わるような気がする。
- ・特に伝統文化、食文化あるいは葬送儀礼などはどんどん減っている。例えば、備前市で一番大きなお寺の住職は、「今頃は 80%は家族葬で、もう様変わりだ。」という。一旦変わりだすと将棋倒しに変わってしまう。
- ・都会で流れている空気と田舎の流れている空気が混ざり合えば、またどこかで反省して、新しい希望というものが出てくる気がする。

【事務局】

- ・伝統文化の継承保存についてきちんと状況把握するのは大事だという意見があったので、文化財課を中心に情報共有しながら意見を伝えてまいりたい。
- ・今年度中止等になった部分の代替はどうなっているのかということについてだが、資料 6 ページにある「アートで地域づくり実践講座」は年間を通じたワークショップ形式で行う事業の実施が難しかったので募集する前に中止を決定し、その代わりに講師に協力していただき教材を作ることにした。リスク管理から企画、広報の仕方等の教材を作り、それをベースに来年度以降事業を展開していく予定である。県民文化祭だが、9月から11月を中心に開催し、県下全域で様々な分野別の活動をしてもらうものだが、中止せざるを得ない文化団体もあったものの、業種別ガイドラインに沿った取り組みで実施や動画配信等、コロナの中でも何とか活動を見てもらう方法に変えた団体も多かったと聞いている。
- ・他のコラボが考えられないかという意見があったが、来年度も各文化団体などから企画提案をもらう事業の中でコラボできるのであれば支援できたらいいと考えており、県文化連盟とも連携協力しながら考えていきたい。
- ・映像的なものが少ないという意見については、確かに少ないので今後どういったことが考えられるのか検討してまいりたい。
- ・県外の美大などに行って、そこから帰って来ないという意見があったが、資

料4ページの「アーティスト滞在・交流事業」なども活用し、県外の若手の芸術家が岡山県に戻るきっかけになればいいと思う。もし帰ってもらえるのであれば、来年度から取り組むアーティストバンク等に登録し、広く活用してもらえたらありがたい。

【委員】

- ・大まかには代替事業が遂行できているということか。

【事務局】

- ・県民文化祭では県が主催するものはできているが、県内各市町村の文化団体等では実施できなかったもの等があり、昨年度と比べると4割減になっている。
- ・山陽新聞社と共催で実施している県展は、8月ギリギリまで待ったが、約3,000点の作品を一気に搬入する必要があり、密になる時間が長いことや会場の都合もあり、運営委員の意見を聞いてやむなく中止とした。

【委員】

- ・勝山町並み実行委員会で展覧会をどうすべきか、かなり悩んだ。金盛先生の彫刻の展覧会だが、地元の方でもあり、密にならないように色々なコロナ対策をして実施したら、400名以上の方が久しぶりで見られてよかったと言われた。
- ・地方は大きな展覧会がないので、見て心が和む、美しいものが見たいという方が多い。本当に細々だが、皆さんに行き渡るよう展覧会を少しずつでも頑張ってやっていかなければいけないということを、来館者の数を見て勉強させられた。皆さんは求めているので、密にならないように上手に配慮しながら見てもらうという姿勢も大切だ。

【事務局】

- ・県立美術館は4月に緊急事態宣言が出てから初めて2週間程度休館を余儀なくされる状況になったが、そうなる前から可能な限りの感染対策をして、公立美術館の使命として、常に開かれた美術館であることが基本であるということを考えながら、緊急事態宣言の解除とともにいち早く再開にこぎつけた。
- ・再開後は、密になってはいけないということがあり、7月か8月頃までは、特に他県から来る人が望むような展覧会はできないと、常設展のみをしていたが、開いていても人が来なかった。これではいけないと、若手の学芸員らと話をする中で、せっかく岡山の誇りである芸術家のコレクションをしっかりと持っているんだから、もっと多くの人に知ってもらう工夫をした方がいい

のではないかという提案があり、最初に始めたのが、今までは各学芸員がばらばらに常設展で展示していたが、一つのキーワードを定め、そのテーマに沿って展示をしてみるということだ。皆さん外出自粛でどこにも行けないなら旅をテーマにしてみようと、日本画の絵巻物や陶芸等も旅をテーマとして展示してみてもどうかという形で、美術館に来てもらったら日本各地を巡ることができるという企画をすると、大きな集客には結びつかなかったが、来た方から「こんなこともやっているんだ、ちょっと心が和んで、こんな時期でもほっとした」という声をもらった。そうした形でまず一つは今あるコレクションの魅力を高めていくにはどうしていったらいいのかということを考えていかないといけない。

- 従来の県立美術館だと集客力や人気のある展示会でたくさん稼いで、なかなか集客は見込めないが、ぜひ県民の皆さんに見てもらいたいものやっていたが、これからはそういうビジネスモデルだけでは美術館は運営できないと感じたところであり、そうした面から掘り起こしていくことが大事と思っている。
- 先程「Drawing Melodies」という話をしたが、これは美術館が存在する出石地区の地域づくりの若い方から美術館と一緒にこの地域を盛り上げることができないかという提案があり、美術館でのイベントと出石町地域の方がするものとの相乗効果を出しながら、この地域を盛り上げていきたいと取り組んだものである。
- 県立美術館があつた地域にある意味というものを今一度見直し、地域に開かれた美術館として、これから何が求められ、何ができるのか、できることを一つずつ積み重ねていくことが大事ということを今回このコロナで学んだところだ。
- これからコロナをきっかけに、美術館として、従来とは少し違った、今までの、人気展で人の頭越しに名画をちらっと見るというのではなく、ゆったりとした中で作品としっかり向き合って、お互いに語りかけるような形で本来の鑑賞のある美術館を目指すとともに、地域の中で地域とともに地域を盛り上げ、文化の継承にも資する美術館としてやっていく必要があると感じ、そのような思いを共有しながら今後の美術館運営に当たっていきたい。
- 「Drawing Melodies」については、メロディーズというから音楽かというところがあるが、詩や俳句等もぜひやってみたい。

3 その他

- 次期指定管理者の選定結果（天神山プラザ）
- 令和2年度文化観光推進法に基づく拠点計画の認定について

【事務局が資料に基づき説明】

【委員】

- ・天神山文化プラザの指定管理の件に関してだが、天神山文化プラザは岡山県内に住む人達のための展覧会をするという理念が50年間続いていたと思うが、芸術交流の開催時には、なぜか3ヶ月間、芸術交流のために天神山が使われ、はみ出されたアーティストがたくさんいた。
- ・今は逆にコロナで、募集しても中止など大変な状況なので、むしろ申込者が少なくなっていると思う。
- ・今まで、あそこでは個展ができず、団体あるいは何人かのグループでの展覧会できるが、1人申し込む個展はできないという制限があったと思うが今もそうか。

【事務局】

- ・原則としては、個展での貸し館はしておらず、指定管理者が企画する事業で年2回程度行う場合には認めている。
- ・現在はコロナ禍で、確かに空きができていますが、天神山文化プラザは99%近い利用率を誇っており、今たまたま団体の方が使われてないのかもしれない。
- ・指定管理者から個展の要望があると聞いており、今後そうしたことも視点に入れながら検討する必要があると考えているが、現時点では文化団体の方に文化振興の拠点として使ってもらおうこととしている。

4 閉会 文化スポーツ振興監あいさつ